

平成29年9月3日(日)

老球の細道354号

## 目標が変われば人生は変わる

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先日東北ミニ国体が終了した。福島県代表は史上初の4種別本国体(愛媛県開催)出場権を獲得した(成年女子は全県出場)。少年男女は福島南、郡山商業などが単独でも東北トップクラスなのでミニ国体出場は予想通り。成年男子はビックマン不在の中で優勝は逃がしたが、見事東北第2位で国体出場を果たしたのは賞賛されるだろう。

成年男子ヘッドコーチの大内慎一先生(県立石川高校)は試合前から「国体優勝」の高い目標を掲げ、寄せ集めの選抜チームをよくまとめ上げていた。この高い目標を掲げることで「背水の陣」を敷き、モチベーションを上げ努力したのだろう。

福島県国体選抜チームが秋田でミラクルを起こしている時、会津地区ではジュニア連盟主催のバスケットボール技術講習会「ジュニアサマーキャンプ」が開催されていた。会津地区から男女合わせて150名くらいの意欲のある選手と10数名のJBA公認コーチのもとで、午前男子、午後女子がステーションドリルでファンダメンタルに励んでいた。

女子の閉講式において、地元強化委員長の星博之先生(田島高校)からミニ国体における福島県チームの快挙が報告された。その際、星先生から中学生たちに「国体選抜選手になりたい人、手を挙げて!」と言ったら、80人以上いた女子選手で手を挙げたのは、わずか2名。目標が低いのでは、練習しても強い選手、チームは育つはずがない。

人は変わりうる存在である。ヒンズー教の教えに次のような格言がある。「考えが変われば行動が変わる。行動が変われば態度が変わる。態度が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人間が変わる」。「考え」には「目標設定」も含まれる。

目標は、挑戦意欲を刺激するためにも能力より高めに設定しなければならない。目標がつまらないと、考えや行動を変えるために本気で何かをしようという気にはなれない。毎日背伸びをし続ければ、いつの間にか大きくなってしまふものである。

元ジャパンエナジー監督の中村和雄氏が鶴鳴女子高校コーチ時代(昭和47福島インターハイ優勝)、練習試合をする相手は当時実業団日本一の「ユニチカ山崎」しか眼中になかったという。高校生を相手にせず、「ユニチカ山崎」を破ることを目標にがんばって高校日本一を達成した。また、尊敬する新井春生氏は「日本一になりたければ、何事においても日本一のものに触れよ」と教えてくれた。

会津は今年で戊申戦争から150年になる。私が高校時代、国語の先生から授業時に教えられたことを今でも忘れない。「会津は歴史史上2回日本の中心になるチャンスがあった。1回目は関ヶ原の戦いの前に家康が上杉景勝の会津討伐に向かった時。2回目は戊辰戦争会津戦。残念ながら両方負けてしまったが、スポーツに例えると全国大会決勝戦。臆することなく勉強もスポーツも全国トップレベルを目指してがんばれ」と。

私たちは自分がどのくらい凄い能力を持っているかわからない。自分で自分を低く決めつけてはいけない。人は他人から自分を決めつけられると気分を害するくせに、自分で自分自身を決めつけることは平気です。しかも低いレベルで安易な方向に。自分を侮ってはいけない。今が二流、三流レベルでも、目指すは常に超一流を。指導者はこのことを選手に毎日シャワーのように浴びせてほしい。もちろん指導者自身にも。